

ホタテガイ採苗速報

採苗器の袋の下に落ちた稚貝は使わないようにしましょう

1 稚貝採取時の稚貝の状況

7月13~25日に水産総合研究所の2実験漁場と漁業者16人の養殖施設から回収した採苗器の稚貝(選別前)の平均殻長は7.0mm、へい死率は1.0%、異常貝はありませんでした。

2 稚貝採取の注意点

稚貝の殻長が小さいことやヤマセが多いことから、稚貝採取が遅れている地区があります。採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜まり、異常貝率やへい死率が高くなる(図1、2)ので、採苗器の袋の下に落ちた稚貝は使わないようにしましょう。

また、採取済みの稚貝はヤマセによる速い潮流によって、パールネットの中で振られて異常貝やへい死が発生する可能性があります。稚貝採取後の施設は中層以深に沈め、立ちきり(土俵)やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

(その他の注意事項)

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○タライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。20分でタライの海水の酸素がなくなるので、かけ流しにできない人は、頻繁に海水を交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温(下記URL、QRコード)を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。分散が遅れると異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ(50~100枚/段)に入れましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

(4) 高水温や速い潮の影響を避け、早い時期に稚貝採取するために、目合1分、1分5厘、1分8厘など、2分未満のネットの保有率を高めましょう。

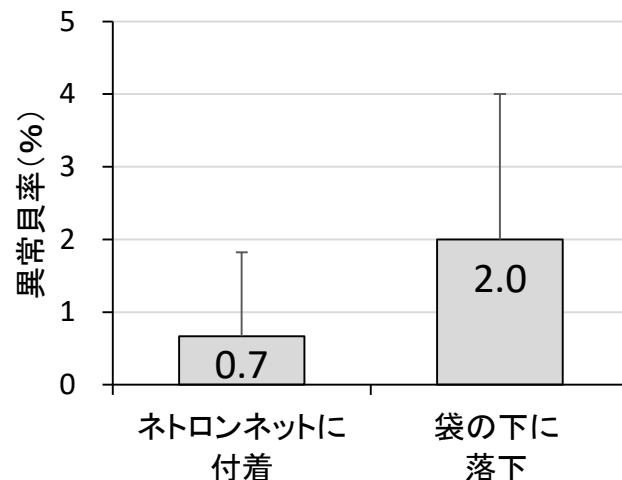


図1 採苗器のホタテガイ稚貝(2分選別後)の異常貝率

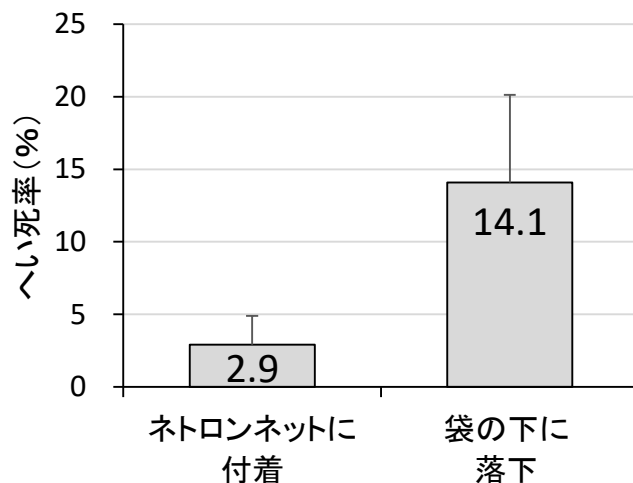


図2 採苗器のホタテガイ稚貝(2分選別後)のへい死率

